

Order from the Office of Retired Tennō Go-Shirakawa of Heiji 1 (1159), 4th Month, 20th Day (KW08-Shiryō 6 Go-Shirakawa In-no-chō Kudashibumi)

FINAL FINAL

Source:

高野山文書宝簡集¹平治元年四月二十日：後白河院序下文²

Kōyasan³ monjo, Hōkanshū⁴ (in Dai nihon komonjo, vol.1, pt.1, pp.352-353)

¹ **高野山**：和歌山県伊都郡高野町にある高野山真言宗の総本山、金剛峯寺（こんごうぶじ）の山号。南山。（『日本国語大辞典』）

高野山の歴史は、弘仁七年(八一六)に空海が高野山の地を嵯峨天皇から賜ったことに始まるが、伝説上、高野山は空海開創以前からの宗教的聖地であったとまたは通称考えられ、役行者開創説・僧行基開創説・丹生明神開創説などがある。役小角が高野山を開いて最初に建立したのが「六坊小路」であるとか(高野山通念集)、空海以前に高野山を開いた役小角の法孫が空海の弟子となり、後世の行人の初めとなったとか(五事略)、西院(さいいん)谷の西南(さいなん)院は行基の始めた旧地であり、大峯・葛城修行者は行基の高野山の旧跡護摩(ごま)峯を出発点とした(高野山通念集)などという。これらは中世以後高野山の行人と修験者の関係を説くもので、近世には高野山の行人は大峯・葛城修験の先達であった。役小角や行基開創伝説は、高野山における行人の宗教的機能を示唆するものである。（『日本歴史地名大系』31巻）

高野山文書：真言宗総本山高野山金剛峰寺および高野山内か各子院に襲蔵される古文書。内容は、当時の制度に関するもの、仏神事に関するもの、寺領に関するものの三種に大別されるが、そのうち寺領に関するものが大部分を占める。（『国史大辞典』）

宝簡集（ほうかんしゅう）：「高野山文書」を代表する文書群の一つ。宝簡集・続宝簡集・又続宝簡集は、転写本を含めると古文書類3689点を298巻15冊に装訂されており、延暦24（805）から寛保3年（1743）までの文書群がまとめられている。昭和28年（1953）に国宝となる。「宝簡集・続宝簡集・又続宝簡集」の刊行においては、明治37年に東京大学史料編纂所より『大日本古文書』（高野山文書：家わけ1-1・1-2・1-3）として刊行されているが、完全影印本ではなかった。しかし、最近ではデジタル化され、「『大日本古文書』による文書題名を踏襲し検索機能を付加」するなど、広く研究者のニーズに応えるようになってきている。（<http://www.ksk-jp.com/publication/hokan/hokan.htm>、または高野山宝霊館のサイト：http://www.reihokan.or.jp/hanbai/list_cd.htmlを参照。）

² **院序**：1）上皇が政務を執る所。また、その組織。上皇を首長とし、院司によって構成される。承和二年（八三五）嵯峨上皇の時に院司が置かれたのが最初。院政期に至って次第に整備され、別当、判官代、主典代のほか、執事別当、年預、蔵人、非蔵人、北面武士なども置かれるようになった。（下記の「院使」参照）2）女院の事務をつかさどるところ。（『日本国語大辞典』）

院司：院司を性格・機能の上から分類すれば、1）院中の庶務を統轄処理するもの＝別当（執事・執権・年預を含む）・判官代・主典代・庁官、2）上皇の速記に侍し、身の雑務にあたるもの＝殿上人・蔵人・非蔵人、3）各種の職掌を分担専当するもの＝別納所・主殿所・掃部所・召次所・仕所・御服所・御厨子所・進物所・薬所・文所・御廄、4）院内外の守護警衛を任とするもの＝御隨身所・武者所・北面に分けられる。狭義の「院司」は、その中核をなすものとして1）または1）と2）のみを指す。（国史大辞典）

院序下文：院の序が発行する文書。「院序下」と書き出し、末尾に年月日の後に別当、判官代、主典代は必ず、その他の院司も多数連署するのが様式上の特徴。院宣（いんぜん）は院司一人が奉ずるものであって簡便であり内容も多岐にわたるが、下文は文書様式が重く、内容は院の御領、院の御願寺などに関するものが多い。

³ 高野山 (Kōya-san): A mountain in Ito District, Wakayama Prefecture, mostly known for being the headquarters of the Shingon sect of Japanese Buddhism; honorific mountain name (*sangō* 山号) assigned to Kongōbu-ji (Kongōbu Monastery Complex). It is also called Nanzan (the Southern Mountain), in opposition

Michelle Damian
Nan Ma Hartmann
Sachiko Kawai
Laura Nuffer
Dan Sherer
Kevin Wilson
January 17, 2009

原文

院庁下 荒川庄官等

可令早任鳥羽院御使盛弘長承三年注文停止、田仲・吉仲兩庄相論当庄四至内領地事

四至〈東限檜橋峯并黒川 南限高原并多須木峯 西限尼岡中心并透谷 北限牛景淵并紀陀淵〉

右、彼庄今日日解状僞、謹檢旧貫、御庄建立之後既雖及 数十年、全無致如此牢籠之人。然間、故鳥羽院令崩御之後、即恣押取当御庄内、爲彼田仲庄領之後、漸送年月。雖捧数度解状、無指御沙汰之間、適以、去比於院庁、被召対決当御庄官等与彼田仲庄住人等之刻、彼庄住人等、全依無其理、卷舌無陳方。因之、当御庄存無限理之处、庁御下文未成下之間、尚以被掠領之條、其理豈可然哉。就中、雖被倒諸国新立庄園、於白河鳥羽兩院庁御下文之所者、訴訟之時、領家注子細、可經奏聞之由、宣旨有限。然者、何乍見彼論言、猥爲田仲庄預内舍人仲清、忝被倒美福門院御領乎。殊可垂御摧迹者也。望請鴻恩、且依先例、且任鳥羽院庁御下文、速被成下庁御下文、永令停止彼庄異論。者、当庄堺、任御使盛弘注文四至、停止田仲・吉仲兩庄異論、可爲美福門院領状。所仰如件、庄官宜承知依件行之。敢不可違失。故下。

平治元年五月廿八日 主典代右衛門少尉安部（花押）

（以下署判省略）

読み下し文

to Hokurei (Northern Peak), an alternate name for Mount Hiei. The history of Mount Kōya can be traced back to 816 when Emperor Saga granted permission to Kūkai to build a monastic retreat there.

高野山文書 (*Kōya-san monjo*): Mount Kōya documents. Historical documents archived in Kongōbu-ji and various sub-monasteries of Shingon Buddhism in the Mount Kōya area. The majority of these documents are records of monastery administrative regulations and accounts of temple affairs.

⁴ 宝簡集 (*Hōkanshū*): One representative compilation of Mount Kōya documents. It includes 3,689 articles dated from 805 to 1743 in two hundred and ninety-eight scrolls and fifteen volumes. (*Kōyasan monjo* in *Dai nihon komonjo*, vol. 1, 2, 3)

院庁下す。荒川庄官⁵等。

早く鳥羽院御使⁶盛弘の長承三年の注文⁷に任せて⁸停止せしむべし。田仲⁹・吉仲¹⁰両庄相論する当庄四至内領地の事。

四至〈東は檜橋峯並びに黒川を限る。南は高原並びに多須木峯を限る。西は尼岡中心並びに透谷を限る。北は牛景淵並びに紀陀淵を限る。〉

右、彼の庄今日解状に倣く、

謹んで¹¹旧貫（きゅうかん）¹²を検ずるに、御庄（みしょう）建立の後、既

⁵ 荒川庄：紀ノ川南岸の氾濫原、柘榴（ざくろ）川流域、野田原（のたはら）川の奥地など、現桃山町のほぼ全域と現粉河（こかわ）町の一部を占める広大な荘園で、荒河・安楽川・安楽河なども記す。平安時代後期以来、中世を通じて史料が比較的豊富に残り、荘内での諸事件も多岐にわたるため、実態の研究が進んでいる荘園の一つといえる。（『日本歴史地名大系』第31巻）荒川庄の位置については Appendix を参照。

⁶ 院使：院の庁、女院の庁からの使者。（『日本国語大辞典』）

⁷ 注文：注進の文書。注進状を指す。土地の状況その他を調査し、その明細を注記して具申する文書。平安後期から室町後期ごろ行われた。注文。勘録状。実検状。（『日本国語大辞典』・『広辞苑』）

⁸ 『続宝簡集』保延元年12月29日付「荒川庄田畠桑并在家等検注状案」によると、保延元年（1135）に、院庁使・国使・下司によって、荒川庄の詳細な検注が行われている。（『日本歴史地名大系』第31巻、p.243）このことより、前年の長承三年（1134）に四至の確認のための調査が始められていた可能性が高い。つまり、この「鳥羽院御使盛弘長承三年注文」は、四至にかかわるものであったと推定できる。

⁹ 田仲庄：現打田町域の南半部にあった荘園で、北は池田（いけだ）庄、西は岡田（おかだ）庄（現岩出町）、南は荒川（あらかわ）庄（現桃山町）に接する。初見は藤原為隆の日記「永昌記」の天永元年（1110）3月6日条で、この記事により、当庄はそれ以前から撰関家領であったことがわかるが、成立過程は未詳。近江日吉八王子社の法華講開始のことは中世には著名で、「平家物語」（巻一「願立」）や「執政所抄」正月条にも記される。当庄の預所も平安時代後期以来、在地の小武士団として活躍した。例えば、荒川庄は鳥羽院領であったが、保元元年（1156）鳥羽法皇の死とともに当庄の預所内舎人佐藤仲清が示を無視して侵掠し、停止を命じる本家藤原忠通家の政所下文や後白河上皇の院宣、あるいは荒川庄を伝領した美福門院令旨（以上宝簡集）などを無視して侵掠を繰返した。仲清の子内舎人左衛門尉能清の時代は、折から源平争乱に際会したが、当庄内に「以外構城、集千万軍兵」、荒川庄に乱入して、田中庄領にしようとした（年未詳4月24日付「荒河庄百姓等言上状案」宝簡集）（『日本歴史地名大系』31巻）

¹⁰ 吉仲庄：紀ノ川・貴志川の合流点やや南方、現丸栖（まるす）、調月（つかつき）（現桃山町）の辺りを荘域とした荘園。「兵範記」仁平3年（1153）10月28日条によると、藤原道長が建立した京都法成寺領として、これより50年ほど以前に成立し、この10年来平信範が知行してきた。しかし左大臣藤原頼長の命によって為親の知行に交替させられたことがわかる。法成寺領として成立した経緯は未詳だが、嘉暦2年（1327）後9月13日の関白家御教書（宝簡集）は「治安以来知行」と主張している。吉仲庄の者達は、田中庄預所佐藤仲清らと呼応して、度々荒川庄を侵掠した（応保2年11月日「東寺拳状案」又続宝簡集など）。長寛元年（1163）7月4日の左京権大夫平信範書状（宝簡集）には下司実綱法師の名が知られるが、これらの者が侵掠などをしてきたものであろう。なお同年平信範は当庄宛てに濫行停止の下文をも出しているが（同年7月25日「関白家政所下文」同集）、前述の仁平3年以降再び知行を回復したものである。（『日本歴史地名大系』31巻）

¹¹ 謹む：1）うやうやしくかしこまる。神や尊いものに対して、うやまいの心をもって尊ぶ。（『日本国語大辞典』）

¹² 旧貫：旧慣のこと。1）古くからのならわし。慣例。旧習。しきたり。2）先例。前例。（『日本国語大辞典』）

に数十年及ぶと雖も、全く此くの如き牢籠（ろうろう）¹³を致すの人無し。然る間、故鳥羽院崩御せしむるの後、即ち恣（ほしいまま）に当御庄（とうみしょう）の内（うち）を押取（おしと）り¹⁴、彼の田仲庄領と爲すの後、漸（ようや）く¹⁵年月を送る。数度（すうど）の解状¹⁶捧（ささ）ぐ¹⁷と雖も、指（さ）せる御沙汰¹⁸無きの間、適（たまたま）¹⁹以（もつ）て、去比（さんぬるころ）、院庁において、当御庄官等と彼の田仲庄住人等を召し対決（たいけつ）せらるるの刻（きざみ）²⁰、彼の庄住人等、全く其の理無きに依りて、舌を巻き陳ずる方²¹無し。之に因り、当御庄無限の理と存ずるところ、庁御下文、未だ成し下されざるの間、尚ほ以て掠領（りゃくりょう）²²せらるるの條²³、其の理、豈に然るべけんや。中就（なかんづく）²⁴、諸国の新立庄園を倒さると雖も、白河鳥羽両院庁²⁵御下文²⁶の所においては、訴訟（そしょう）の時、領家子細を注し、奏聞（そうもん）を経るべきのよし、宣旨²⁷限り有り²⁸。然れば、何ぞ彼（か）²⁹の綸言（りんげん）³⁰を見ながら、猥に田仲庄預（しょうのあずかり）³¹内舎人（うどねり）³²仲清³³として、忝（かたじけな）き美福門院³⁴の御領（ごりょう）³⁵を

13 牢籠：1）とりこめること。2）正当でないこと。作法に従わないこと。（『日本国語大辞典』）

14 押取：「おさえとる」とも読める。無理に取る。しいて奪う。（『日本国語大辞典』）

15 漸く：すでに。もはや。（『日本国語大辞典』）

16 荒川庄の庄官の解状の宛先については明記されていないが、可能性として、「朝廷（太政官の弁官）に出された」、または、「本所である美福門院に出された」と考えられる。

17 捧ぐ：目下の者から目上の者へ物をたてまつる。献上する。献納する。（『日本国語大辞典』）

18 指せる：ここでは、「特別な。」という意。

19 適：偶然に。ちょうどその折。ふと。（『日本国語大辞典』）

20 対決：両者が相対して正否や優劣などをはっきり決すること。裁判で、当事者が提出する書類や証書などを比較検討して裁決すること。（『日本国語大辞典』）

21 陳方・陳する方：方術を述べる。（『大漢和辞典』）手立てを見つける。方法を示す。

22 掠領：奪い取って占領すること。掠奪し領有すること。（『日本国語大辞典』・『広辞苑』）

23 条：…のこと。…の段・くだり。…というかど。（『日本国語大辞典』）

24 中就：その中でとりわけ。特に。

25 院庁：上皇や女院に付属して院中の諸務を処理する役所。とくに主典代（庁年預）の管する下級庶務機関に限定した用例も多い。院政開始以後、政務をとる上皇の院庁はとくに拡充され、しだいに国政にも関与し、その発行する院庁下文、院の牒の權威も高まった。

26 下文：院の庁の下文は院の庁から発給された公文書。諸国の在庁官人・社寺などにくだされる。（『広辞苑』）

27 「保元元年閏九月十八日宣旨」（『兵範記』）の第2条を参照。

28 この場合は、「限り有り」＝有限。事の良し悪しにかかわらず、重大な価値、意味をもつこと。尊重されるべきこと。

29 彼の：あの。かの。

30 綸言：天子の仰せごと。君主のことば。みことのり。

31 庄預：平安時代、荘官の呼称の一つ。荘園領主から任命されて荘園内の一切の事務、治安などをつかさどった役人。

32 内舎人：令制で、中務省（なかつかさしょう）に属する文官。大宝元年（701）六月設置。警衛、雑役に従い、行幸時に供奉（ぐぶ）して前後左右を警護する。分番官（順番に勤務する）の大舎人に対して長上官（毎日出勤する）である。定員 90 人。以後は上級貴族層と無縁にな

倒されんや。殊（こと）に御景迹（ごきょうじゃく・きょうざく・きょうせき）³⁶を垂るべくものなり。望請（のぞみこうらく）は鴻恩（こうおん）³⁷を。且は先例により、且は鳥羽院庁の御下文に任せて、速やかに庁の御下文を成し下され、永く彼の庄の異論³⁸を停止（ちょうじ）せしめん。」てへり。当庄の堺、御使（おんつかい）盛弘の注文の四至に任せて、田仲・吉仲両庄の異論を停止し、美福門院領たるべきの状（じょう）³⁹、仰する所件の如し。庄官（しょうかん）⁴⁰宜しく承知し、件によりこれを行え、敢えて違失（いしつ）すべからざれ。故（ことさら）に下す。

平治元年五月廿八日 主典代（さかんのだい）右衛門少尉安部⁴¹（花押）⁴²
（以下署判省略）

現代日本語訳

院庁が荒川庄官等に[院の仰せを] 下す。

直ちに、鳥羽院御使盛弘の長承三年の注文に任せて[田仲・吉仲両庄が荒川庄に対

っていき、延喜ごろには高官の家人の任例も見え、平安末期に蔵人所雑色や滝口からの任官が見られる。内給・院宮給はじめ高位者の年給・臨時給による補任が多い。成功による補任も少なくなく、絹 2000 疋相当の成功により申請し、臨時内給で任ぜられた例なども見られる。また摂関に隨身として左右近衛のほかには内舎人を賜う例であったが、藤原頼忠が内舎人を辞する例を開き、藤原頼通以後は定例となった。『拾芥抄』中によれば、中務省の北門の東脇に内舎人所が置かれた。年労によって官を賜う制が成立し、年に三人（二人の例もある）東海・東山道、殊に坂東諸国の掾に任ぜられる例であった。平安末期には武士も多く任ぜられ、姓を冠して藤内、源内、平内などと称した。（『平安時代史事典』）

³³ 佐藤仲清（さとうのなかきよ 生没未詳）：田仲庄の預所。内舎人でかつ藤原忠通の隨身でもあった。「佐藤」という名字は代々左衛門尉に補した藤原の家筋という意味。（田中文英、平氏政権の研究 147）

³⁴ 藤原得子（ふじわらのなりこ 1117-60）：鳥羽上皇の皇后。白河院の近臣権中納言藤原長実(父)。母は左大臣源俊房女（方子）。美しいといわれた。鳥羽天皇死後に荒川庄を譲られて、1159(平治元年)に高野山に譲った。（『平安時代史事典』）

³⁵ 御領：鎌倉・室町時代、身分の高い人の領地をいう。

³⁶ 御景迹：事情の経過について推察すること。きょうざく。

³⁷ 鴻恩：大きなめぐみ。大恩。

³⁸ 異論：他と異なる意見、議論。対立した考え。また、それを表明すること。

³⁹ 領状：目上の人を命令を承諾（しょうだく）して受け入れること。伏して従うこと。承知すること。

⁴⁰ 庄官：荘園で領主の代理として年貢の徴収、管理、上納などの諸事務を執ったものの総称。その初期の経営では中央から荘官を派遣し、九世紀頃から以後は、在地の豪族を任命して事務を任せることが多かった。奈良時代には荘使・荘領などの名称がみられ、平安時代には荘長・荘預などがみられる。荘司。

⁴¹ 安部資良（あべのすけよし 生没未詳）正六位上（『檢非違使補任』第一 p. 175）。

⁴² 花押：書判とか押字ともいう。書署名に下書く判。はじめは楷書体でサインすることが、平安時代末期・鎌倉時代にいろんな様式があつて、名前の漢字に関係あるというわけではない。（『平安時代史事典』）

して起こしている荒川庄四至内の領地についての争いごとを]やめさせよ。
四至〈東は檜橋峯并黒川に限る。南は高原并多須木峯に限る。西は尼岡中心并透谷に限る。北は牛景淵并紀陀淵に限る。〉右の件について：この庄（荒川庄）[の庄官が出した] 今月日の解状が言うには、

「謹んで[荒川庄の]歴史や先例を調べたところ、この庄は立荘後、すでに数十年が過ぎたにもかかわらず、このように土地を奪う（我が荘の領地を囲い込んでしまう）者は一人もいませんでした。しかし、故鳥羽院が崩御なされた後、すぐに勝手に当御庄[荒川庄]の中の領地を奪い取り、上記の（例の）田仲庄の領地としてしまった後、すでに年月が経過してしまいました。何度も[荒川庄の庄官が]解状を奉（たてまつ）ったにもかかわらず、特別に御沙汰をたまわらなかったところ、[有り難いことに]偶然にも先だって、院庁に当御庄（荒川庄）の庄官等と田仲庄住人等が召され、双方の主張を議論させて正否を裁決させることができました。そうしたところ、彼の庄（田仲庄）の住人等の[主張]は、全く道理がなく（正当でなく）、舌を巻いてなす術がありませんでした（弁解することができませんでした）。こういう事情により、当御庄（荒川庄）[側の主張は]全く過ちがないはずなのですが、[鳥羽院]庁御下文がまだ出されていないので、まだなお田仲庄の荒川庄に対する略奪行為はとどめられていません。このようなことは、どうして道理に叶っていると言えましようか（いや、言えません）。特に、諸国の新しい作られた荘園を停止されるとしても、白河と鳥羽の両院の庁の下文を持っている荘園は、訴訟があったならば、領家が事情を記して、朝廷に報告しなさい。[保元元年の新制の]宣旨が出されており、[それを]尊重すべきである。そういうことであるから、どうしてこの宣旨を知りながら、みだりに田仲の庄の預の内舎人仲清が、恐れ多い事に美福門院の領を掠領するのか。特に[後白河院は]事情をお察してください。大恩を被りたい。一方では先例により、一方では鳥羽院の庁の下文に任せて、速く庁の下文を発給なされ、永久に[田仲]荘園の対立した意見を停止していただきたい。」ということである。この荘園の堺について、盛弘使の注文の四至に任せて、田仲・吉仲の両荘園の対立した意見を停止して、[荒川庄が]美福門院領であるべきだ。「後白河院の」仰せのことは上記のとおりである。庄官は命令を承知して、これを実行せよ。これに違ってはならない。特別に[この命令を]下す。

英訳

Ordered, by the Office of the Retired Tennō⁴³ to the managers of Arakawa Estate:⁴⁴

⁴³ 院庁 (*In no chō*): The office of a former *tennō* that was staffed by ranked officials. The first former *tennō* to be assigned ranked officials was Saga, in 835. Over the course of the Heian Period, as retired *tennō* became ever more politically prominent, the *in no chō* grew accordingly, gaining directors (*bettō* 別当), major-domos

In keeping with the Chōshō 3 (1136) report and listing⁴⁵ by the emissary⁴⁶ [from the administrative headquarters] of Retired Tennō Toba, Morihiro, [we order you to] promptly cease the dispute over boundaries between Tanaka Estate⁴⁷ and Yoshinaka⁴⁸ Estate [with Arakawa Estate]. The four boundary markers of the [Arakawa] domain [are as follows]: The easternmost point is fixed at Hibashi Peak and the Kuro River. The southernmost point is fixed at Takahara and Tasuki Peak. The westernmost point is fixed at the center of Amaoka and Tōkoku. The northernmost point is fixed at Ushikage Gorge and Kita Gorge.

(*shitsuji* 執事), supervisors (*hōgandai* 判官代), secretary-provisioners (*kurōdo* 藏人), potential secretary-provisioners (*hikurōdo* 非藏人), clerks (*shutendai* 主典代), guards (北面武士), and a variety of other staff members. (*Nihon kokugo daijiten*)

院序下文 (*In no chō kudashibumi*): An order issued by the office of the retired *tennō*. Unlike most government documents, which were stamped with official seals, orders from the office of the retired *tennō* were signed by a director, a supervisor, and a clerk, and possibly by other staff members as well. Most of these orders are written in a dense, formal style, and concern either properties owned or temples sponsored by the retired *tennō*.

⁴⁴ 荒川庄 (Arakawa no shō): A large *shōen* in Kii Province (modern Wakayama Prefecture), which occupied almost all of modern-day Momoyama and part of modern-day Kokawa. Specifically, the territory consists of the floodplain on the southern bank of the Kino River, the Zakuro River basin, and the headwaters of the Notahara River. Arakawa is also written as 荒河, 安樂川, and 安樂河. Because we possess a comparatively large volume of historical documents concerning Arakawa Estate from the late Heian through the middle ages, it is one of the most intensively researched *shōen*. (*Nihon rekishi chimei taikēi*) For a map of Arakawa Estate, see the end of this translation.

⁴⁵ According to the *Zoku hōkanshū*, Arakawa Estate was officially surveyed in Hōen 1 (1135). (*Nihon rekishi chimei taikēi*, vol. 31, 243) Therefore, it seems likely that a preliminary survey to establish boundary markers would have been initiated in the previous year (1134), and that the “report” mentioned here refers to that survey report.

⁴⁶ 院使 (*inshi*): A messenger from the Office of the Retired Tennō.

⁴⁷ 田仲の庄 (*Tanaka no shō*): A *shōen* located in the southern half of modern-day Uchita, bounded by Ikeda Estate on the north, Okada Estate on the west, and Arakawa Estate on the south. Tanaka Estate is first mentioned in 1110 in *Eishōki* (永昌記), the diary of Fujiwara no Tametaka. From Tametaka’s writing, we know that this territory previously belonged to the household of the regent, but how it became established as a *shōen* remains unclear. From the late Heian Period onwards, Tanaka Estate was managed by a small band of resident warriors. The neighboring Arakawa Estate was the property of the retired *tennō* Toba, but after Toba’s death in 1156, it was invaded by the steward of Tanaka Estate, Satō Nakakiyo. Although Nakakiyo was ordered to desist by Regent Fujiwara no Tadamichi (the proprietor of Tanaka Estate), the retired *tennō* Go-Shirakawa, and his consort Bifukumon’in (who had inherited Arakawa Estate), residents of Tanaka Estate continued to attack their southern neighbor. Nakakiyo’s son, Yoshikiyo, carried on his father’s policy of aggression and attempted to take over Arakawa Estate during the Genpei War. (*Nihon rekishi chimei taikēi*)

⁴⁸ 吉仲の庄 (Yoshinaka no shō): Also written as 吉中. A *shōen* located slightly to the south of the junction of the Kino River and the Kishi River, near modern-day Marusu and Momoyama. According an 1153 entry in the *Hyōhanki*, Yoshinaka Estate had been established roughly fifty years earlier as the territory of Hōjōji in Kyoto (founded by Fujiwara no Michinaga). For the first ten years after its creation, Yoshinaka Estate was managed by Taira no Nobunori. However by the order of Minister of the Left Fujiwara no Norinaga, it was transferred to Fujiwara no Tamechika. (*Nihon rekishi chimei taikēi*)

Regarding the above: the statement⁴⁹ sent [to the office of Go-Shirakawa] this month by the [Arakawa] estate reads: “We have humbly investigated the ways of old, [and found that] although several decades have passed since the *shōen* was established, no one has ever committed illegal acts such as these.⁵⁰ However, soon after the late Retired Tennō Toba passed away, [Tanaka Estate] willfully appropriated the land of this *shōen* to make it part of its domain. Since then, months and years have already⁵¹ passed. Although several reports were submitted [to the authorities],⁵² no decision⁵³ was handed down. However, in past when the local notables of Arakawa Estate and the residents of Tanaka Estate were summoned to the administrative headquarters [of Go-Shirakawa] to debate⁵⁴ their claims, since [the actions of] the residents of that [Tanaka] estate were unreasonable, their tongues were tied and they had no way to defend themselves. The claims of this Arakawa Estate are completely in the right, but since an order from the administrative headquarters [of Go-Shirakawa] has not yet been issued, without the least justification the illegal appropriation of our land has continued.⁵⁵ Although⁵⁶ new *shōen* in the various provinces are being overturned, in the case of those that possess orders⁵⁷ from the offices of the retired monarchs⁵⁸ Shirakawa or Toba, when there are disputes, the proprietor should list up the details and make a memorial to the throne, as per royal decree.⁵⁹ Why then, when there are such orders,⁶⁰ has the custodian⁶¹ and Palace Attendant⁶² Nakakiyo⁶³ unreasonably usurped

⁴⁹ 解状 (*gejō*): A petition or statement sent to a superior.

⁵⁰ 牢籠 (*rōrō*): Although this word has various (albeit uniformly negative) meanings, here it suggests illicit acquisition, even theft.

⁵¹ 漸く (*yōyaku*): Already.

⁵² It is unclear to whom these reports were directed; they may have been sent to the court, but it is also possible that they were sent to Bifukumon’in, who had inherited Arakawa Estate after Toba’s death.

⁵³ 指せる (*sasesu*): Special, in particular.

⁵⁴ 対決 (*taiketsu*): Hearing of the arguments of both sides in a tribunal setting.

⁵⁵ 掠領 (*ryakuryō*): To plunder and take over.

⁵⁶ 中就 (*nakanzuku*): Specifically; particularly.

⁵⁷ 下文 (*kudashibumi*): Order. Usually a type of document that conveyed orders from a superior official or office to a subordinate one.

⁵⁸ 院庁 (*In no chō*): Office for managing the everyday affairs of the retired *tennō* or retired queen-consort. When a hierarchy of retired monarchs emerged (beginning in 1086), the Office of the Retired Tennō expanded and influenced state affairs to a greater extent through the issuing of its own orders.

⁵⁹ See “Hōgen 1, Intercalary 9th Month 18th Day Royal Decree,” Item 2, in the *Hyōhanki* courtier journal for further information about this decree. (*Zōho shiryō taisei*, vol. 2 p. 139)

⁶⁰ 綸言 (*ringen*): Commands by the *tennō*. The royal words.

⁶¹ 庄預 (*shō no azukari*): a non-resident manager appointed by the *shōen* proprietor. Nakakiyo was actually the *azukaridokoro* (預所), a custodian who, in some cases, acted as a deputy of the *shōen*

Bifukumon'in's⁶⁴ domain⁶⁵ [Arakawa Estate, merging it into] Tanaka Estate? We pray for Your Majesty's consideration—please understand our position. According to precedent and the orders of the office of the Retired Tennō Toba, quickly let an order be composed and sent out to forever silence false claims.”

Therefore let the boundaries of this estate follow those in the report of the royal envoy Morihiro. Let the false claims of Tanaka and Yoshinaka estates be silenced, and let it [Arakawa Estate] be the proprietary holding of Bifukumon'in. Let the *shōen* managers know this and act accordingly. There should be no breach. So ordered.

Heiji 1 5th Month 28th Day.

Equivalent Fourth-level Manager cum 2nd Lieutenant Junior Class step of the Right Gate Guards, Abe [no Shigeyoshi].⁶⁶ (Seal)⁶⁷

[Other signers omitted]

proprietor. (Tanaka Fumihide, *Heishi seiken no kenkyū*; and Yamamura Kozo, ed., *The Cambridge History of Japan, Volume 3: Medieval Japan*)

⁶² 内舎人 (*uchitoneri* or *udoneri*): In the *ritsuryō* system, a post affiliated with the Ministry of the Interior (中務省). They accompanied members of a royal procession to provide protection and other services.

⁶³ 佐藤仲清 Satō Nakakiyo (Birth/death dates unknown): He was custodian of Tanaka Estate and served as a palace attendant and escort for Fujiwara no Tadamichi. The name "Satō" is composed of the first character of "Left Gate Guards" (Sa) and the first character of "Fujiwara" (Tō). It shows that Nakakiyo's line was a branch of Fujiwara that served in that position for successive generations. (Tanaka Fumihide, *Heishi seiken no kenkyū*, p. 147)

⁶⁴ 藤原得子 Fujiwara no Nariko (1117-60): Queen-consort to Toba Tennō. Her father was Assistant Middle Counselor Fujiwara no Nagatsune, who was an intimate of Shirakawa Tennō. His mother was Katako, daughter of Minister of the Left Minamoto no Toshifusa. She was said to have been very beautiful. After Toba Tennō's death, she (as Bifukumon'in) received Arakawa Estate, and in 1159 subsequently donated it to Kōyasan. (*Heian jidaishi jiten*)

⁶⁵ 御領 (*goryō*): Lands held by an especially prominent personage or institution. For instance the *Kantō goryō* were estates held in proprietorship by the Kamakura Bakufu, and *denka goryō* were domains belonging to the regent's line of the Fujiwara. (*Encyclopedia of Japan*)

⁶⁶ 安部資良 Abe no Sukeyoshi (Birth/death dates unknown): Senior sixth rank, upper. (*Keibiishi bunin* Vol. 1 p. 175)

⁶⁷ 花押 (*kaō*). Also called *ōji* and *shohan*. A handwritten seal added after one's signature. Originally it referred to printing one's signature, but by the end of the Heian Period there were numerous styles, some of which had no relationship to one's real name. (*Heian jidaishi jiten*)

Appendix



紀伊国荘園分布図 (2)

Amino Yoshihiko, Ishi Susumu, Inagaki Yasuhiko, and Nagahara Keiji, eds. *Kinki chihô no shôen III*. Vol. 8, *Kôza nihon shôenshi*. Tokyo: Yoshikawa Kôbunkan, 2001, 11.